

ウクライナ危機

目でみる経済

原材料や原油の高騰状態です。

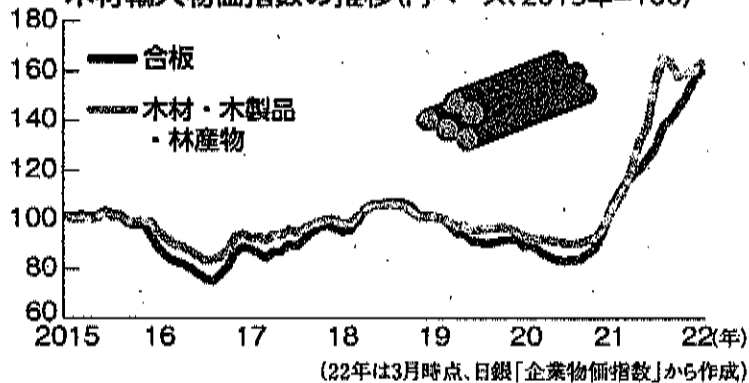
が中小企業を直撃しています。値上げするか赤字を覚悟で価格を据え置くか、板挟みの

燃料高に苦しむ 都内で工務店を営む男性(59)は、新型コ

も同86%上昇しまし

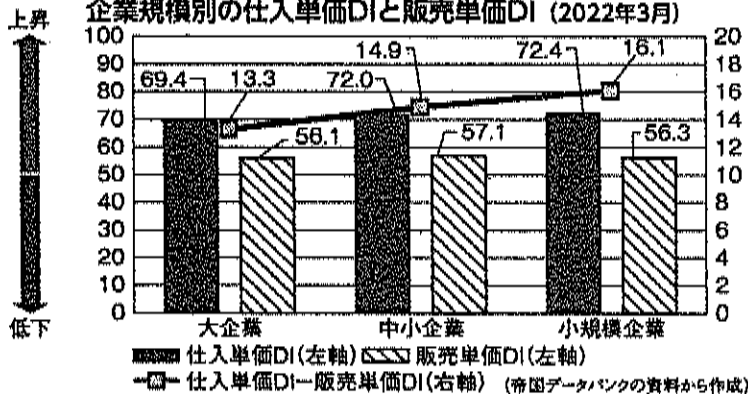
ロナウイルス禍にロシアのウクライナ侵略が重なり、木材価格や燃料の高騰に苦しんでいます。日銀の企業物価指数によると、2022年3月における木材・木製品・林産物全体の輸入価格は20年12月と比べ78%上昇。建物の壁・床・屋根に使う合板

木材輸入物価指数の推移(円ベース、2015年=100)



(22年は3月時点、日銀「企業物価指数」から作成)

企業規模別の仕入単価DIと販売単価DI (2022年3月)



帝国内データバンクの資料から作成

中小 原材料高で板挟み

た。米国における住宅建築需要の増加で国内に入ってくる木材が減少したことが一因です。これに伴い国産材の需要も増え、輸入材とともに価格が急騰しています。木材不足と価格高騰は「ウッドショック」と呼ばれ、1年以上にわたり建材業者や工務店などを苦しめてきました。そこへウクライナ危機が発生。木材不足に加え、木材加工のための燃料代が跳ね上がりしました。

「コロナ禍前と比べて、合板1枚につき千円近く値上がりしている。ロシア産木材も輸入が減少している。モノがないので木材を売る業者の言い値になっている」
値上げ分を契約額へ転嫁した結果、契約を断る消費者が相次いでいます。住宅を改装する

るといふ客に見積書を出したところ、今月契約をキャンセルすると連絡がきました。400万〜600万円の契約が消えました。
「今までこんなことはなかった。とても厳しいが、値上げ分を転嫁しないと赤字になってしまう」
民間信用調査会社の帝国データバンクが4月初めに実施したアンケート調査によると、回答した1855社のうち、過去半年間で「すでに値上げした」「今後1年以内で値上げする予定」と答えた企業が64.7%に上りました。
一方、16.4%の企業が「値上げしたいが、できない」と回答。値上げによる顧客離れを警戒しているとみられます。
帝国データバンクが5日に公表した3月の景気動向調査によると、仕入れ価格の上昇が過去20年で最高を記録しました。
仕入れ価格が「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた「仕入単価DI(指標)」も71.6%と過去最高を記録。特に、仕入単価DIは企業規模が小さくなるほど高水準となっています。
仕入単価を販売単価に転嫁できていない実態が浮き彫りとなっています。企業の価格転嫁の度合いを示す仕入単価DIと販売単価DIの差も中小・小規模企業ほど広がっています。中小企業ほど価格転嫁ができていない状況です。

(小村優)